

リアルな避難訓練

行方不明者を配置する！

対象	小学校低学年～中学生
コマ数	0.5～1 コマ

実践校：江戸川区立葛西中学校
西東京市立青嵐中学校

プログラム要素	情報伝達／ 集団行動
---------	---------------

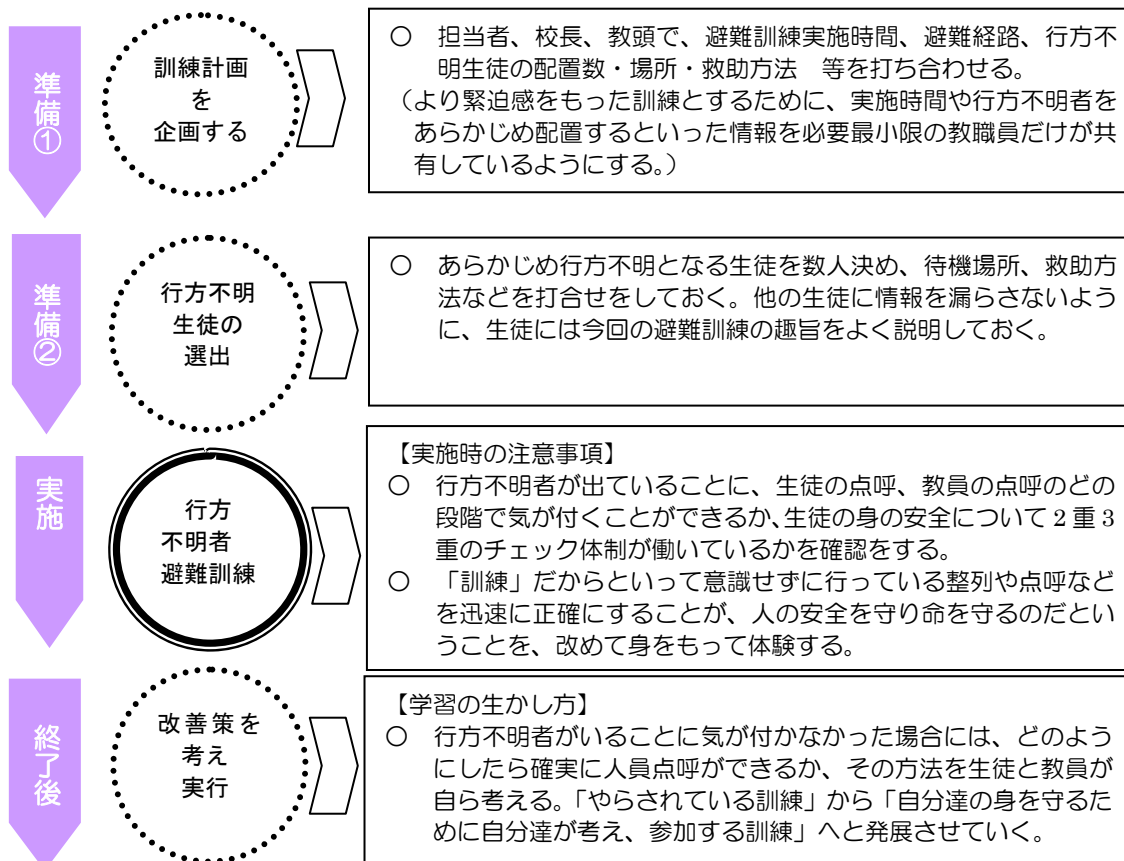
<何をやるの？>

☀ 通常の避難訓練に**プラスαの工夫**を行う。火災が**休み時間中**に発生することを想定すると共に、あらかじめ**行方不明となる生徒**を配置し、正確に点呼・人数確認ができるかを訓練する。

<なぜ必要なの？>

☀ マネリ化しがちな通常の避難訓練を緊迫感のあるものにしていくためには、まずは、生徒そして教職員の意識改革を行う必要がある。普段の訓練をちょっとした工夫で活性化させることで、危機管理意識を持つきっかけをつくる。

<プログラム実施までの流れ>





けが人役生徒

災害救援ボランティアがけが人役生徒に包帯を巻いている。



初期消火

2Fの理科室より火災発生
火災が教室外に延焼。



校庭へ避難

この時点ではけが人役生徒は校庭にはまだ避難していない。先生も生徒もその事に気づいていない様子。



点呼

行方不明者がいるのも関わらず、委員、担任教師の点呼では「全員揃っている」ことになっている。

(今回の訓練では、この後行方不明者は自力で避難し合流したが、日頃から点呼を確実に行うことが大切だと実感した。)